

〔伊呂波字類抄人倫〕撰客マラット 賓客 問客 問客已上同

〔書言字考節用集人倫〕賓客マロク 客人同 客人キヤクシ 主人シユク 主人シユク 主人シユク 賓客ヒシカク

〔古京遺文〕佛足石歌碑略 ○中

久須理師波都禰乃母阿禮等麻良比止乃伊麻乃久須理師多布止可理家利米太志可利鷄利

〔倭訓栞前編二十九〕まらうど 賓客をいふ希人の義なり和名抄佛足石の歌などにまらひと

もよめりまらうとさね伊勢物語に見ゆ上客をいふ也

〔類聚名義抄七〕主之度反 主人アルシ

〔伊呂波字類抄人倫〕私天アルシ 主同

〔倭訓栞前編二〕あるじ 主をよめり又主人をよむ神代紀にみゆりぬ反る也家にあるぬしの義

也万葉集にあるじとも見ゆ

〔源氏物語四十七〕この君はあるじがたにこゝろやすくもてなし給物からまだまらうどゐのか

りそめなる方にいだしはなちたまへればいとからしと思給へり

〔枕草子〕あれはたぞげそうにといへばあらずいへあるじつばねあるじと定め申べきことの

侍るなりといへば略 ○下

賓主例

〔日本書紀二〕一云略 ○中 豐玉姬即白父神曰在此タトキマワト 貴客意望欲還上國略 ○下

〔日本書紀十九〕二十二年是歲復遣奴氏大舍獻前調賦於難波大郡次序諸蕃掌客額田部連葛城直

等使列于百濟之下略 ○下

〔日本書紀二十〕元年六月明旦マラトノツカサ 領客東漢坂上直子麻呂等推問其由

〔日本書紀二十二〕十六年六月丙辰客等泊于難波津略 ○中 於是中臣宮地連磨呂大河内直糖手船

史王平為掌客マラトノツカサ